

平成22年12月21日『第5回県政ランチミーティング』における主な発言要旨及び県の考え方について

参加団体・参加者	発 言 要 旨		参加者の発言に対する県の考え方		
	参加者の発言	知事の発言		所管課	
茂田井区運営協議会 小平 和一様 他10名 (立科町)	1 「茂田井間の宿の保全・維持」について 元気づくり支援金などを活用しながら整備をしているが、少子高齢化の進展から、今後この間の宿の景観をどうやって維持していくのが将来に向けての悩みであり課題である。 街道筋の空家が増えており、また、高齢者の1人暮らしが多く、空家の予備軍になっているが、実際、空家を貸すという話になると権利や修繕費などの話もあって難しい。 遊休農地の増加や里山の荒廃が進んでいて、特に民有林は境界や相続などの問題もあり整備が進んでいない。また、民有林はお金を出してまで整備をしようと思っている人も少ない。県で補助金などを出してもらえればと思う。 知事は過疎化対策に経験が深いと聞いているので何かアドバイスをいただければと思う。				
		景観の話は長野県全体でも同様の話があるので重要な課題である。	・景観育成推進事業を実施する中でご意見の趣旨が反映されるよう努めます。	建設部 建築指導課	
		景観は観光や定住促進には必要なものであり、また、定住促進には働く場が必要であり、そうすると農業・林業への従事ということも必要で、このようなことを複合的にやらなければいけないと思う。そのためには行政の縦割りをなくして、現場に近いところでいろいろ行える仕組みが必要である。	・平成23年度に知事を本部長とする「長野県移住・交流推進本部」を設置し、部局横断的な移住・交流施策の推進に努めます。	観光部 観光振興課	
		個人的には空家対策に非常に関心を持っている。選挙の時に県内を回って空き家が本当に多いと感じた。個人の財産に関わる話なのでも問題も多いと思うが、地域の中でまず取り組んでもらい、それを行政がサポートする形が一番良いのではないかなと思う。	・現在、市町村が把握している空家等の情報を集約し、県のホームページ等で情報提供しております。 ・今後、田舎暮らし案内人や「ターン総合促進会議等と連携し、市町村の空家活用の取組の促進に向けて、支援方法等を検討してまいります。	総務部 市町村課	
		民有林の所有者がわからない等の問題が地域の重要な課題になっていると認識しており、うまく突破できる仕組み作りが考えられないかと思っている。境界確定に行政がお金を出せればよいが、結局は税金の使い道の優先順位の話なので、県民の皆さんの意見が重要となる。	・緊急に間伐が必要な里山については、「みんなで支える里山整備事業」で90%の補助を行い、所有者負担を軽減して森林整備を推進しています。また、市町村においても森林造成事業の高上げ補助を実施しており、所有者負担の軽減を図っています。 ・境界の明確化については、「林業再生境界明確化事業」で対応しています。	林務部 森林政策課 森林づくり推進課 信州の木振興課	
	2 「茂田井間の宿の活性化」について 立科町では都会からのU・ターンを推進するために、ホームページに空家情報を掲載しているが、交通の便の話とか助成の話などからあまり進んでいないため、やはり、良い条件にしないとなかなか来てくれないと感じている。 立科町の人口は8千人弱だけど、訪問者が2万人、3万人と集まるような町づくりを考えている。そのためにウォーキングも始めた。 行政が力を入れようと思っているところに、我々のようなグループも一緒に参加していかないと、良い方向に進まないと思う。	来年度、定住促進や地域間交流など、もう少し県としても力を入れていきたい。	・平成23年度に知事を本部長とする「長野県移住・交流推進本部」を設置し、部局横断的に移住・交流を推進することとしているので、こうした取組みの中でご意見の趣旨が反映されるよう努めます。	観光部 観光振興課	
		都会の生活に嫌気がさしている若者は多い。こういう人たちが農業とか林業に従事してもらえるようになればと思っている。また、併せてサポート体制も作らなければならない。	・信州農業入門事業、H23年度から都市部の就農希望者を長野県に呼び込み、定着化を誘導する取組を実施する中で、ご意見の趣旨が反映されるよう努めます。 ・林業への就業斡旋やそのための研修は、長野県林業労働力確保支援センター（長野県林業労働財団）が実施しており、3名の雇用改善アドバイザーが、随時相談に応じています。 また、信州の木振興課担い手育成係においても相談を受ければ、センターに随時、紹介できるようにしています。	農政部 農村振興課 林務部 信州の木振興課	
		destinationキャンペーンを一過性のものにしてはいけない。長野県全体で道をもう少し前面に出していけないかと思っている。道とそれにまつわる話は長野県内に結構たくさんある。	・「未知を歩こう。信州2011」観光キャンペーンでは、「歩く」を重要なテーマの一つとしているので、この事業を実施する中でご意見の趣旨が反映されるよう努めます。		
		長野県の観光は、山がきれい、川がきれいの他に何かもう1つ付加する必要がある。	・「未知を歩こう。信州2011」観光キャンペーンでは、「未知」「おもてなし」を重要なテーマとしているので、この事業を実施する中でご意見の趣旨が反映されるよう努めます。	観光部 観光振興課	
		交流という話は、行政だけでやってもだめだと思う。皆さんのような活動を応援するとか、一緒にやるとか、そういう形で考えないといけない。	・平成23年度に策定予定の「長野県移住・交流推進戦略(仮称)」の中で県・市町村・民間団体の役割分担を明確にしながら、田舎暮らし「楽園信州」推進協議会への民間団体の加入を促進し、官民一体で取り組んでまいります。		

平成22年12月21日『第5回県政ランチミーティング』における主な発言要旨及び県の考え方について

参加団体・参加者	発 言 要 旨		参加者の発言に対する県の考え方	所管課
	参加者の発言	知事の発言		
	3 「中仙道の景観づくり」について 中山道の景観づくりが帯を為すように形にしていきたい。	それぞれの地域がそれぞれ頑張っているように感じている。	・社会資本整備総合交付金を活用することによりそれぞれの地域がそれぞれに景観づくりを行うことが可能です。	建設部 建築指導課